

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		前野 一夫		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																							
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																							
文化・教養	芸術専門課程	音響芸術科			平成9年文部科学大臣 告示号外第229号	-																							
学科の目的	音楽・音響ソフトに関する専門知識、技術を学び、映像・音響ソフト産業のコンテンツ制作で幅広く活躍できるサウンドエンジニアを養成する。																												
認定年月日	平成27年2月17日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																					
2年	昼間	1710		1170		1470		時間																					
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)		専任教員数	兼任教員数	総教員数																							
80人	128人	2人		3人	22人	25人																							
学期制度	■前期：4月1日～10月11日 ■後期：10月12日～3月31日			成績評価		■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定																							
長期休み	■学年始：4月1日～ ■夏季：8月10日～8月15日 8月31日～9月7日 ■冬季：12月23日～1月8日 ■学年末：3月18日～3月31日			卒業・進級条件		進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																							
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動		■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動：有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 株式会社東京サウンド・プロダクション 麻布プラザ株式会社 株式会社白川プロ 株式会社スズキオーディオ 電音エンジニアリング株式会社 ■就職指導内容 履歴書作成指導、面接指導、メンタル指導、個人面談、その他社会人としてのマナー指導など。 ■卒業者数 58 人 ■就職希望者数 50 人 ■就職者数 41 人 ■就職率 82.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 73.3 % ■その他 ・東京工科大学 メディア学部編入：1人 ・他大学編入：2人 ・他大学進学：1人 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等(令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舞台機構調整技能士</td> <td>②</td> <td>11人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス検定3級</td> <td>③</td> <td>58人</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>ProTools技術認定</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>22人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	舞台機構調整技能士	②	11人	7人	ビジネス検定3級	③	58人	50人	ProTools技術認定	③	15人	15人	サウンドレコーディング技術認定	③	22人	22人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																										
舞台機構調整技能士	②	11人	7人																										
ビジネス検定3級	③	58人	50人																										
ProTools技術認定	③	15人	15人																										
サウンドレコーディング技術認定	③	22人	22人																										
中途退学の現状	■中途退学者 8名 ■中退率 6.6% (休学者2名含まず) 平成31年4月1日時点において、在学者121名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者109名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談もを行っている。																												

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>・片柳学園入学金免除制度・若きつくりびと奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度</p> <p>・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 有</p> <p>特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日) 受審</p> <p>http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ② 「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
- ③ 「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※ 「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ① 「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ② 「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3) 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

レコーディング、映像分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。またレコーディング分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容及び方法について検証する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	①
菅原 恭史	株式会社フリーマーケット	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	③
村尾 博一	株式会社ジーリンクスタジオ	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	③
前野 一夫	日本工学院八王子専門学校 校長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	
朝比奈 孝浩	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回（3月・9月）

(開催日時（実績）)

第1回 令和元年9月26日（木） 10：00 ～ 11：00

第2回 令和2年6月15日（月） 17：30 ～ 18：00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会から、基礎知識の徹底に関するご意見を頂いたので、基礎実習及び基礎演習の授業内容を精査し、より体験型の習得しやすい授業への展開を進める。また、実習環境も次世代の授業に対応するべく、ICTの導入などの研究、検討を速やかに進めることとする。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

レコーディングの実習において実践的な指導を受けるために音楽録音の実績のある企業を選定している。また、指導を受けるにあたっては各分野で必要となる知識、技術、感性を有している講師の派遣などの協力が得られることが可能な企業を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業からの意見等を参考にし、音楽録音の仕組みや新技術などの技術提供を基にした実習へのフィードバックを行い、次年度のカリキュラムに反映させている。演習などの授業内容を映像化し、委員に見てもらいながら検証を行い、改善点などをフィードバックしてもらう。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実習・演習 1	レコーディング・MA・ラジオ等のスタジオワークに必要な、各種機材の基礎知識、基本となる作業、挨拶を含めた各種マナー等を学ぶ。	ミキサーズラボ
実習・演習 2	<p>【レコーディングエンジニア専攻】</p> <p>楽器へのマイクセッティング、SSLのレコーディングモード、エフェクター（コンプレッサー、ゲート、イコライザー、リバーブなど）の実習やPro Toolsを使用したレコーディング。Pro Toolsのオペレート、エディット、バンドレコーディング（練習、本番）、バンドレコーディング ミキシング実習</p> <p>【MAエンジニア専攻】</p> <p>ミキサーの基本操作、Pro Toolsを使用した収録、Pro Toolsのオペレート。基本操作、エディット、映像に対するオペレート。エフェクターの基本操作、効果的な使用方法。MAにおけるスタジオワーク、マイクセッティング、映像の取り込み、ナレーション収録など。TV CM制作、CMの企画、絵コンテ制作、映像編集、サウンドデザイン、MA、試写会、評価を行う。</p> <p>【ラジオミキサー専攻】</p> <p>ミキサーの基本操作、マイクセッティング、Pro Toolsによる収録、エディット、Pro Toolsのオペレート。</p> <p>Pro Toolsによるラジオ番組制作、番組の企画、台本制作、スタジオ収録、ポータブルミキサーの操作を行う。</p>	ミキサーズラボ
卒業制作	専攻ごとに学んだ知識を生かして、実践的な作品制作を行います。	ミキサーズラボ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

- ・学生の在籍管理に関する情報共有と管理方法の確認に関する教員研修
- ・新技術を含めた専門的教育に関する研修
- ・分野ごとの専門知識習得に関する研修

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「アニメ・声優業界のレコーディングに関して」

（連携企業等：株式会社エスターセブン）

期間：2019年11月14日（木）10時～

対象：音響芸術科 教員

内容：株式会社エスターセブン 北垣様を招いての特別講義：アニメ・声優業界においてはサウンドエンジニアの活躍のフィールドがあり、次世代エンジニアに必要なスキルをヒアリングしカリキュラムへの展開を検討する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「 Cubase10を活用した音楽制作方法について 」(連携企業等:株式会社センターラインレコード)
 期間・令和2年3月予定(コロナウイルスのため延期、実施検討中) 対象:ミュージックアーティスト科、音響芸術科教職員
 内容:音楽・音響制作のメジャーソフト「Cubase10」について、ソフトをバージョンアップした場合の注意点や、version10特有の新機能を使った音楽・音響制作方法について勉強会を行う予定

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「 17Liveを活用したライブ配信方法について 」(連携企業等:株式会社17 Media Japan)
 期間・令和2年10月予定 対象:ミュージックアーティスト科、音響芸術科教職員
 内容:次世代の音楽配信の最新技術「ネットライブ配信」における先端アプリ17 Liveを活用した音楽配信をアーティスト側、音響スタッフ側の両面から考察した勉強会を行う予定

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「 UI/UXを考慮した学生指導法 」(連携企業等:株式会社B.C.Members)
 期間・令和3年3月予定 対象:ミュージックカレッジ教職員
 内容:デジタル社会の中で特に遠隔教育において理解度を上げる鍵となるUXについて理解し、UI/UXを考慮した指導法を学ぶ研修を実施予定。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33) 個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

Society 5.0を踏まえた教育が必要との意見から、専門分野だけでなくインターネットなどのIT技術を中心に修得できるような学科・カレッジを超えたラボレーションを強化するとともに、コミュニケーションやビジネススキル向上、部分で積極的に勉強するようなアクティブラーニングの環境を整えるため、地域連携事業を積極的に推進する。

コロナ禍でのオンライン授業などに対応するため、利用し易いIT環境の整備を早急に進めていく。また、対面授業においても専門家からの意見を参考に、感染防止対策に万全を尽くしていく。

教員もコロナ禍における授業体制に対応するスキル向上のため、今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を積極的に活用できるよう教員の研修体制を整えていく。

募集活動においては、オンライン面談など将来を見据えた対策も早期に計画する。また、経済的な問題を抱えている学生へは、高等教育の新制度を周知しながら修学継続できるような支援策を計画していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループ マネージャー)	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	地域関連
三井 隆裕	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ()) 令和2年9月30日

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和元年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程音響芸術科) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアプランニング1	早期から就職・進路に向けた準備を行う。	1・前	30	2	○			○		○		
○			キャリアプランニング2	早期から就職・進路に向けた準備を行う。	1・後	30	2	○			○		○		
○			ビジネストレーニング1	後期に行うビジネス検定対策前に必要とされるデジタルメディアの概要について学んでいく。映像を使ったプレゼンテーション技術があらゆるビジネスにおいて活用できるように効果的な手法として動画の撮影、制作手法について行う。様々なPR手法に加えクロマキーや映像の特殊効果についても学んでいく。	1・前	30	2	○			○		○		
○			ビジネストレーニング2	「ビジネス能力検定ジョブパス3級」(以下「B検」)合格に向けての学習・試験対策を行う。B検終了後は、ビジネススキル・ビジネスマナーについてさらに広く学ぶ。双方とも、翌年の就職活動、あるいは就職後の実務において欠かすことのできない内容であるため、学科の専門実技と同等の重要性があることを認識すること。	1・後	30	2	○			○		○		
○			外国語1	グローバル化が加速している現代社会において英語は不可欠である。そんな時代の中で活躍できるようなミュージシャンになるための英語力とコミュニケーション能力を学ぶ。海外に行った場合を想定し実践的な会話ができること、お互いの文化の違い・それぞれの国での考え方の多様性の体得をすることで、国際的な人間関係を築いていくための知識と技術を身につけることを目的とする。	1・前	30	2	○			○			○	
○			外国語2	グローバル化が加速している現代社会において英語は不可欠である。そんな時代の中で活躍できるようなミュージシャンになるための英語力とコミュニケーション能力を学ぶ。海外に行った場合を想定し実践的な会話ができること、お互いの文化の違い・それぞれの国での考え方の多様性の体得をすることで、国際的な人間関係を築いていくための知識と技術を身につけることを目的とする。	1・後	30	2	○			○			○	

○		サウンドシステム 1	前期に引き続き音という現象について、物理的・経験的に理解する事を目的とする。DAWを使って闇雲に音をいじる事は完成時に取り返しの付かない結果を招くこともある。目的とする音作りへの到達は音の現象を正しく理解し、効率的にパラメーターをいじることによって速度アップが可能となる。そのための音響基礎の理解を目的とする。	1・後	30	2	○			○			○
○		映像音響 1	現場で使用されている機器は電気で動作している。この電気の基礎を学び機器の基本的な原理を理解する。現場では多くの種類の機器の操作をすることになるが、操作を覚えてただけなのか動作原理まで理解して操作したかにより、対応力、応用力が違ってくる。プロフェッショナルになるための基礎力、応用力を付ける。前半は電気、電波、音響機器、後半は映像機器を中心に学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○	○
○		映像音響 2	現場で使用されている機器は電気で動作している。この電気の基礎を学び機器の基本的な原理を理解する。現場では多くの種類の機器の操作をすることになるが、操作を覚えてただけなのか動作原理まで理解して操作したかにより、対応力、応用力が違ってくる。プロフェッショナルになるための基礎力、応用力を付けるためにはこの科目で基礎を固めることが重要でありステップアップにつながる。	1・後	30	2	○			○		○	○
○		ProTools 1	世界中の音楽スタジオや楽曲作成には欠かせない音楽ソフトウェアのProTools。このソフトウェアの基本的な操作と、概念をマスターし、音楽関連の現場でエンジニアとして働く者として常識となる技術を習得する。ProToolsを通じてレコーディングエンジニア、MAエンジニア、ラジオスタッフのあらゆる場面で活躍できることを目的とする。	1・前	60	2			○	○			○
○		ProTools 2	ProToolソフトウェアの基本的な操作と、概念をマスターし、音楽関連の現場でエンジニアとして働く者として常識となる技術を習得する。音楽録音は磁気テープ録音の始まりからマルチトラックレコーディングへと進化しライブでは実現不可能なサウンドも形成できるようになった。ProToolsを通じてレコーディングエンジニア、MAエンジニア、ラジオスタッフのあらゆる場面で活躍できることを目的とする。	1・後	60	2			○	○			○

○		実習・演習1	レコーディングスタジオを始めとする音響系スタジオには様々な仕組みと、特有の機材が設置してある。それらの機器をうわべの手順を追うだけでは無く、信号の流れと音声信号の変化を学ぶ。基本はアナログ的な信号の流れを理解することにより、メーカーや機種が異なってもオペレートが可能となる。また、後期の専攻選択の参考となるよう各専攻の音の取り扱い方も学ぶ。	1 ・ 前	180	6				○	○		○	○	○
○		実習・演習2	(ラジオ) 様々な形態の番組作りを通してラジオ番組の制作過程、スタッフの役割全般を学んで行く。近年はラジオは音声だけのメディアとは限らず、インターネットメディアとも連携した番組も増えている。番組作りの中でエンジニアリングについても理解し、番組目的を理解したエンジニアにもなれることも目的の一つである。 (MA)音以外にも知識や技術が求められます。その映像も多種多様存在しており、TV番組、CM、映画、イベント、アニメ等々様です。これらの作品のナレーションやセリフを録音していくのがMAの作業の一つになります。これらの録音にはそれぞれ特徴があり、どのような作品でも適切な録音ができるように、ミキサー・アシスタントの役割を学ぶ。 (REC)レコーディングミキサー卓の基本スタイルの取り扱いを覚えながら、信号の流れを理解する。ポータブルミキサーを使いながら旧来のスピリットコンソール、そしてインラインコンソールへと変化していった過程を追いながら音声信号の流れと処理を理解していく。操作とその意味をしっかりとイメージできるようになることを目的とする	1 ・ 後	180	6				○	○		○	○	○
	○	ライブステージ鑑賞1	アーティストのステージを観て、周辺を含めたプロの技術を学びます。	1 ・ 通	15	1	○					○	○		
	○	資格対策講座1	学科に関連する資格に対して集中的な対策講座を開催します。	1 ・ 通	15	1	○				○		○		
	○	資格対策講座2	学科に関連する資格に対して集中的な対策講座を開催します。	1 ・ 通	15	1	○				○		○		
	○	海外研修	各学科の特色に基づいたプランで、本場のエンターテインメントを学びます。	1 ・ 通	30	1				○		○	○		
	○	ボランティア1	社会貢献、地域貢献といった体験を通じて、社会に関わる喜びを得ていきます。	1 ・ 通	30	1				○		○	○		
	○	特別講義1	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1 ・ 通	15	1	○				○		○		

		○	特別講義 2	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1 ・ 通	15	1	○			○		○		
		○	特別講義 3	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1 ・ 通	15	1	○			○		○		
		○	特別講義 4	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1 ・ 通	15	1	○			○		○		
		○	マルチメ ジャー1	自分が選択している専攻・コース以外に、学科の枠にと られず幅広く学ぶ授業です。	1 ・ 後	15	1	○			○		○		
○			キャリアプラ ニング3	社会人としてのあり方を中心に学んでいく。受動的姿勢 を能動的な姿勢に変えるためにも様々な仕事のあり方・ 考え方を準備してしっかりと社会の一員として活躍出来 るようにしてなる。入社後、丁寧に新入職員研修を行っ てくれる会社もあれば、即戦力を求められる事も多い。 事前に社会人としての基本的マナーとともに万が一仕事 が上手くいかない時、ミスした時の対応も含めて手段を 学ぶ。	2 ・ 前	30	2	○			○		○		
		○	キャリアプラ ニング4	社会人としてのあり方を中心に学んでいく。受動的姿勢 を能動的な姿勢に変えるためにも様々な仕事のあり方・ 考え方を準備してしっかりと社会の一員として活躍出来 るようにしてなる。入社後、丁寧に新入職員研修を行っ てくれる会社もあれば、即戦力を求められる事も多い。 事前に社会人としての基本的マナーとともに万が一仕事 が上手くいかない時、ミスした時の対応も含めて手段を 学ぶ。	2 ・ 後	30	2	○			○		○		
○			ビジネスト レーニング 1	プログラミング教育の必修化を受けて、実務で通用する EXCEL活用法とマクロVBコーディングを通じて、今後の 社会人にとって不可欠な論理的思考能力・問題解決能力 を向上します。	2 ・ 前	30	2	○			○		○		
		○	ビジネスト レーニング 2	コンピュータプログラミング教育の必修化を受けて、今 後の社会人にとって論理的思考能力・問題解決能力の向 上が必須となります。AI時代でもビックデータの構築・ 選別は人間が行なうものであり、コンピュータ的な考え 方を理解する必要があります。アルゴリズム構築の論理 的思考能力・問題解決能力の向上をはかり、仕事の幅や 理解度の高い社会人を育成します。	2 ・ 後	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ実習 2	レクリエーションを兼ねた短期のスポーツ講座を、カ レッジ全体で行います。	2 ・ 通	30	1				○	○		○	

		○	ボランティア 2	社会貢献、地域貢献といった体験を通して、自身も社会に関わる喜びを得ていきます。	2・通	30	1			○		○	○		
○			音楽基礎 3	音楽制作に携わる人として必要な音楽基礎知識、音楽理論、音楽に関する文化、音に関する知識を学ぶ。譜面から情報を読み取る能力をつける。音やリズム、楽譜に関する知識、用語、理論を身につけ、そして知識を覚えるだけでなく、音楽の背景にある科学、世界の文化や知識を得ることで、幅広い対応ができるスキルを身につけることを目的とする。	2・前	30	2	○			○			○	
		○	音楽基礎 4	音楽制作に携わる人として必要な音楽基礎知識、音楽理論、音楽に関する文化、音に関する知識を学ぶ。譜面から情報を読み取る能力をつける。音やリズム、楽譜に関する知識、用語、理論を身につけ、そして知識を覚えるだけでなく、音楽の背景にある科学、世界の文化や知識を得ることで、幅広い対応ができるスキルを身につけることを目的とする。	2・後	30	2	○			○			○	
○			総合業界研究 3	就職活動やインターンシップ、研修などを通して現場の雰囲気や実務内容と自分自身が描いてきた理想とのギャップを体感する時期だと思われる。その中で生まれる悩みや問題点を、個人個人に合わせて解決する方法を講義していく。また社会に出て常識とされる時事問題などを題材に、何か物事に触れた際に必要な情報をリサーチし、意見を持ち、それをまとめて伝える事を出来ることを目的とする。	2・前	30	2	○			○			○	
		○	総合業界研究 4	就職活動や社会に出て常識とされる時事問題などを題材に、何か物事に触れた際に必要な情報をリサーチし、意見を持ち、それをまとめて伝える事の出来る人間の育成を目的とする。音楽業界はある意味特殊な業界の一面もありますが、生き残る為には他業種との交流の機会も必ずある。その中で必要とされる常識範囲の知識やコミュニケーション技術を習得する。	2・後	30	2	○			○			○	
○			ライブ・エンタテインメント 3	1年次の学修をベースにライブを中心とした業務内容、アーティストとの関連性パフォーマンスの知識を広げて行く事が目的。エンターテインメントを知ることで音楽制作は基より幅広い知識を身につけ音響を軸とした、興行の理解を目的とする。	2・前	30	2	○			○			○	

○		実習 3	<p>(MA)エンジニア、サウンドクリエイターとして映像・放送業界を目指す学生の即戦力、応用力を伸ばすための実践的な実習を行う。映像・放送業界の仕組み流れを理解し、作品制作の過程を実際に体験することで、公開されている作品により深い興味を持ち、研究していくことが出来るように進め、現場に近いスピード感を身につける目的で行う。</p> <p>(REC)スタジオワーク一連をこなせるよう、機材の選定とセッティング、ミックスを実践していく。学内スタジオのミクサー卓の流れを完全に理解し、現場に合わせた対応が出来るようにしていく。そして、音楽のレコーディングを繰り返し経験することにより、スピードアップして音作りに時間を費やせるよう作業としてのバランス感覚も身につけていく。様々なアーティストとの実録を行い、アーティスト達とのコミュニケーション力も養う。</p> <p>(ラジオ)ラジオ番組制作に必要な不可欠な技術を身につけることを目的とし、常に自分本位ではない番組制作を意識し、ラジオ以外のメディアへの展開も視野に入れながら、ラジオ放送局の放送基準に基づいた番組制作の実習を行う。録音番組の制作を主体に幅広いジャンルに対応した企画性の高い番組を制作し、クリエイティビティを磨き、リスナーがより楽曲への理解を深める構成、演出を目指す。</p>	2 ・ 前	120	4			○	○	○	○	
○		演習 3	<p>(MA)エンジニア、クリエイターとして現場で必要になる技術、知識を身につける。MA作業で使用する映像素材制作を行うことにより映像作品制作の企画、収録、編集、MAといった一連の流れを理解し作品制作を行う上でのポイントを理解し、映像に対して音響による表現力も養う。また、映像素材の制作を行うことで映像収録、映像編集等についても学び幅広い技術、知識、就職への対応ができるようになることを目的とする。</p> <p>(REC)レコーディングエンジニアとして必要な知識の再確認し、さらには掘り下げ理解していくことを目的とする。エンジニアリングの目的は良い音である。良い音とは何か、自分で発見し、体験して行く事がなければ、形式だけの音となってしまうので、可能な限りのマイクの取扱方法に熟知し、楽器側の状態も考慮に入れた音作りが出来るようになる。</p> <p>(ラジオ)ラジオ番組制作に必要な不可欠な技術を身につけることを目的とし、常に自分本位ではない番組制作を意識し、ラジオ以外のメディアへの展開も視野に入れながら、ラジオ放送局の放送基準に基づいた番組制作の実習を行う。録音番組の制作を主体に幅広いジャンルに対応した企画性の高い番組を制作し、クリエイティビティを磨き、リスナーがより楽曲への理解を深める構成、演出を目指す。</p>	2 ・ 前	60	2			○	○	○	○	

		○	卒業制作	作品制作を通して、外部企業や組織との折衝にて社会人としての基本を身につけることを第一の目的とする。その上で、過去の例や既存のコンテンツにとられることなく、独創性を持った新しいコンテンツの制作を目指し、未来のエンジニアにとって不可欠となるクリエイティブな能力を育むことを目的とする。	2・後	180	6				○	○		○	○	○
○			ProTools 3	ProToolsHDソフトウェアの基本的な操作と、概念をマスターし、音楽関連の現場でエンジニアとして働く者として常識となる技術を習得する。ProToolsHDは特にプロ用のレコーディングテクニックへの対応が強化されており新しいサウンド作成としても欠かせない物であり、コンピュータを楽器として、レコーダーとして使用するため、アニメーションをはじめとする映像分野との連動も高くなっている。	2・前	30	2	○				○			○	
○			ProTools実習3	音楽スタジオ、MAスタジオをはじめとする録音・音声編集作業の現場において絶対的な存在である「ProTools」の基本操作をマスターすることは、現代のエンジニアとして必須のスキルである。「正確さ」「スピード」「応用力」「クリエイティビティ」を高いレベルで実現する必要がある。あらゆる現場、あらゆるシチュエーションにおいて必要な知識、技術を指導し、実践で必ず役に立つスキルを取得してもらう事を目的とする。	2・前	30	1				○	○			○	
		○	メディア研究	音楽、映像など様々なメディアで使われているProToolsの上位バージョンProToolsHD。このソフトウェアの基本的な操作と、概念をマスターし、音楽関連の現場でエンジニアとして働く者として常識となる技術を習得する。コンピュータを楽器として、レコーダーとして使用するため、アニメーションをはじめとする映像分野との連動も高くなっている。その使われ方やアナログ時代の作品についても考察していく。	2・後	60	4	○				○			○	
		○	カレッジプロジェクト	ミュージック・カレッジでの2年間の集大成となるイベント「RealDreams」を通じてその成果を示す。出演アーティストの選定から現場の運営、PA、照明、舞台進行など準備段階から本番まで全学科の学生が協力し合い実施する	2・通	30	1				○	○			○	
		○	ライブステージ鑑賞2	ライブハウスやホール公演、修了公演や卒業ライブや学園祭ライブや学内外の様々なライブを鑑賞して、照明、PA、舞台、制作などのスタッフワークを学ぶ。	2・通	15	1	○						○	○	

		○	キャリアゼミ 2	各専門分野をさらに深く学んでゆきます。将来、その専門分野におけるプロフェッショナルを育成する為に、通常授業より高度な知識やスキルを身に付ける為によりレベルの高い授業になります。	2 ・ 前	15	1	○			○		○				
		○	キャリアゼミ 3	各専門分野をさらに深く学んでゆきます。将来、その専門分野におけるプロフェッショナルを育成する為に、通常授業より高度な知識やスキルを身に付ける為によりレベルの高い授業になります。	2 ・ 後	15	1	○			○		○				
		○	資格対策講座 3	現場で役立つ資格取得のための対策講座です。	2 ・ 前	15	1	○			○		○				
		○	資格対策講座 4	現場で役立つ資格取得のための対策講座です。	2 ・ 後	15	1	○			○		○				
		○	特別講義 3	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2 ・ 前	15	1	○			○		○				
		○	特別講義 4	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2 ・ 後	15	1	○			○		○				
		○	インターン シップ 2	本校提携・協力関係の企業で行われる企業研修です。また、内定した企業で行われる長期研修です。	2 ・ 後	450	15				○		○		○		
		○	マルチメ ジャー 2	自分が選択している専攻・コース以外に、幅広く学ぶ授業です。	2 ・ 前	15	1	○			○						○
合計				66 科目	2640単位時間 (127単位)												

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1320時間(66単位)および選択科目390時間(18単位)以上取得し、合計1710時間(84単位)以上取得すること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。